

2026 年度 大学院Ⅱ期(薬学研究科博士課程) 専門科目 出題意図

問題 1

ヒトの体内におけるエネルギー代謝、およびその調節機構に関する基本的知識を問う。
ストレス時に放出されるホルモンに対する生体応答、代謝調節に至るまでの経路について正しく理解し、論理的に説明する能力を問う。

問題 2

脂質生化学および生理学の基礎知識として、コレステロールの生体内動態を理解しているかを評価することを目的としている。特に、肝臓で合成されたコレステロールがリポタンパク質（VLDL、LDL、HDL など）によって各組織へ輸送される仕組みと、その生理的意義を体系的に説明する能力を測ることを意図している。

問題 3

問 1 クッシング病とクッシング症候群の概念の違いを理解しているかを確認する問題。

→評価ポイント（疾患概念の正確な理解を評価）

内分泌疾患の病態分類の理解

ACTH 依存性と非依存性の区別

下垂体腺腫による高コルチゾール血症（クッシング病）と、コルチゾール過剰状態の総称（クッシング症候群）の区別

問 2 クッシング症候群に特徴的な臨床症状および合併症を理解しているかを確認する問題。

→評価ポイント（症状の機序理解と整理能力も評価）

満月様顔貌、中心性肥満、高血圧、糖尿病、骨粗鬆症、皮膚菲薄化、紫色皮膚線条、易感染性、筋力低下などの理解。

問3 少量デキサメタゾン抑制試験（DST）の検査方法及び判定基準を理解しているかを確認する問題。

→評価ポイント（内分泌機能検査の原理と臨床的意味を理解しているか）

検査の手順；前日 23 時デキサメタゾン投与、翌朝コルチゾール測定

判定（正常：抑制される、クッシング症候群：抑制されない）

問4 デキサメタゾン抑制試験においてなぜプレドニゾロンが使用できないのかを理解しているかを確認する問題。

→評価ポイント（検査薬剤の選択理由（測定系の特異性）を理解しているか）

プレドニゾロンはコルチゾール測定系に交差反応する。

デキサメタゾンは交差反応しない。

問題4

問1 甲状腺全摘術後の症状から、甲状腺機能低下及び低カルシウム血症を推測できるかを評価する問題。

→評価ポイント

甲状腺全摘術後に起こり得る病態（甲状腺ホルモン欠乏、副甲状腺機能低下症）さらに低 Ca 血症、手指しびれ、口周囲異常感覚から病態を統合できるかを確認。

問2 レボチロキシンの過量投与時の副作用、その対処を理解しているかを評価する問題。

→評価ポイント（甲状腺ホルモン補充療法の安全管理の理解を評価）

代表的副作用と対処について。

問3 本処方における重要な薬物相互作用を理解しているかを評価する問題。

→評価ポイント（吸収阻害型相互作用の理解を評価。）

主な相互作用（レボチロキシンのカルシウム）

機序（消化管内でキレート形成、吸収低下）

問4 患者の生活習慣を踏まえて適切な服薬指導を提案できるかを評価する問題。

→評価ポイント（臨床薬剤師的思考を評価する問題）

レボチロキシンの空腹時投与

カルシウムと同時服用不可

食事との関係

問題5

臨床現場における医療安全対策は、病院や薬局で個別の対策だけでなく、医療に関わる業界全体で取り組む必要があり、医療法や薬機法に基づく法令の整備等、行政による取り組みが重要である。本問題は、医療職の資格を有する志願者が、医療安全対策に係る

医療現場での対策と行政の役割について基本的な知識を身に付けているかを問う出題である。

問題 6

治験審査委員会（IRB）の要件及び治験審査委員会が行う事項に関する基本的知識を確認する。

問題 7

問 1 医薬品化学に関する事項について、一般的な知識を問う。

問 2 有機化学反応について、総合的な知識、理解力を問う。

問題 8

問 1 有機化合物の合成法について、総合的な知識、理解力を問う。

問 2 有機化学反応における立体選択性について、一般的な知識を問う。